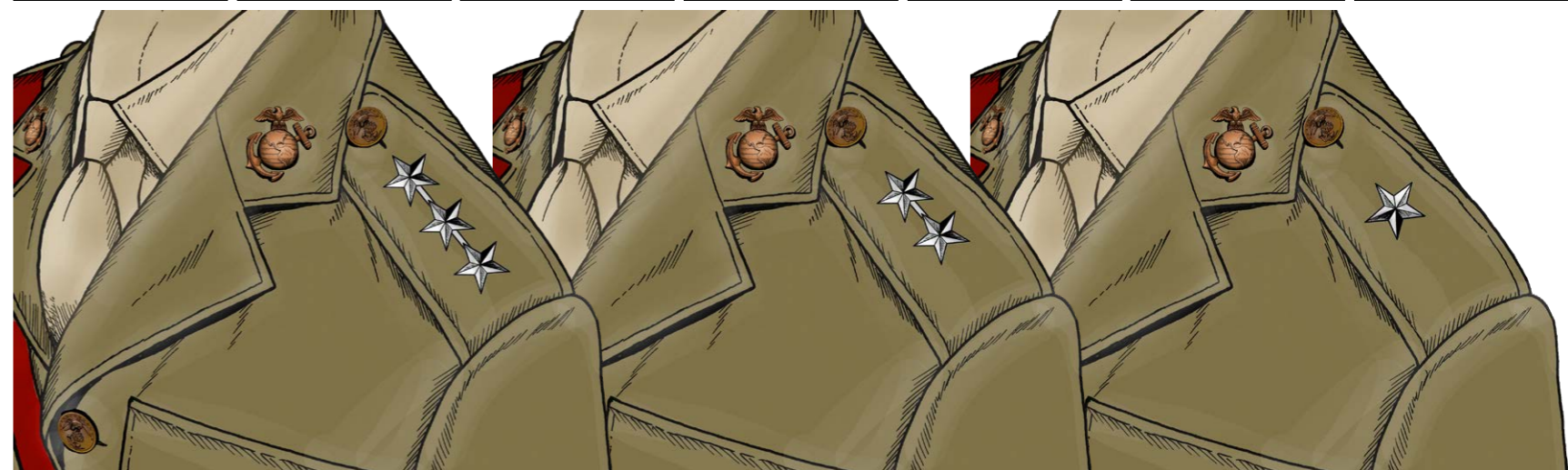


ミリタリーパッチの研究②

UNITED STATES NAVY UNITED STATES MARINE CORPS COAST GUARD AIRCRAFT INSIGNIA ART

インシグニアとは、その人間が属している組織もしくはグループが何であるのかを表すための印である。
ミリタリーで使われるインシグニアでは、ライン、星、葉っぱといった組織を象徴するアイコンを用いて、
さらに詳しい所属や位を表出するシステムができあがっている。
軍に入って、それができる能力と条件が備わっているなら、肩に星をのせることを目指してもいい。
もっとも、軍の階段を上るには、多大な運も必要かもしれないが。
いずれにしても一旦、ミリタリーインシグニアを身に帯びたら「戦っているのは1人ではない」。それだけは確かだ。
構成/コンバットマガジン編集部 文とイラスト/M. Kelly



INSIGNIA OF THE UNITED STATES ARMED FORCE



UNITED STATES MARINE CORPS

海兵隊インシグニア 大陸海兵隊として創設された初期のデザインは、地球儀と月桂樹からなる紋章の英国王室海兵隊に強く影響を受けている。今日までも合衆国海兵隊のエンブレムの一部を形成している。これはファウルアンカーと呼ばれ、錨にチェーンが1回以上巻き付いていること。これに、鷲と地球儀をのせた紋章は1868年11月に海軍長官によって承認された。鷲と地球儀は世界のあらゆる場所での奉仕を意味している。さらに、海兵隊のモットー「Semper Fidelis（常に忠実な）」が書かれたリボンが鷲のくわえてある。錨に付いた海兵隊の職務である水陸両用の性質を表している。**キャップ、カラーとラベル・インシグニア** 帽章のデザインは海兵隊エンブレム（リボンは略）を応用したもので基本的に同じ。サイズと金属、さらにいくつか細かい点で違いがある。将校用は絡まったロープがいくつかの箇所から錨から離れている。下士官用のもではロープと錨の間のスペースは空いていない。将校用、下士官用関係なく、ギャリソンキャップに使用される時はロープはすべて除外される。このように修正されたデザインは襟章としても使われた。**将校（正装）** 完全な正装（フルドレス）、正装（ドレスブルー又はホワイト）および白いキャップに付けられる。正装用としてはゴールドとシルバー。通常用（ドレスグリーン）としては、すべてすんだ色に仕上げられたブロンズ。ギャリソンキャップは通常用の左襟のブロンズ章と同じものを左側に付け、右側には階級章を決められた位置に付ける（正面から5cmのセンター）。**将校キャップの頭部** グリーン系もしくは白の管状編みひもを四葉型（オークリープス）に縫い込まれた飾り。起源は独立戦争時代に、甲板で戦う味方の兵士を誤って撃たないようにしたこと。下士官（正装） 金メッキ。正装と白いキャップに付けられる。通常用（ドレスグリーン）はブロンズ。ギャリソンキャップは、将校と同じ襟章と同型を左側に付ける。**襟章** 通常軍服および礼

装の上着の襟両側に将校も下士官も海兵隊襟章を付ける。左襟は帽章と同じ向き、右襟は地球儀と同じで錨と鷲が逆向きのものが付けられる。上襟のある場合も付ける向きは同じ。将校は、ゴールドとシルバー。下士官はゴールド。通常用（ドレスグリーン）では両者ブロンズになる。常任参謀将校と上級准尉が付ける3つの部門章がある。**1 副官および監督官部門** 紋章は剣と権標が交差し、盾を取り囲む花輪が重ねられている。左右のデザインは同じで正装用はゴールドとシルバーで通常用はブロンズ。**2 主計部門** 剣と羽が交差し、オークの葉とドングリのリースで囲まれている。左右があり、こちらも正装用と通常用がある。**3 高品質補給部門または操舵手部門** 剣と鍵の上に操舵輪が重なり、外輪には13個の星が乗る。こちらも正装用と通常用がある。これらの部門章は、ラベルまたはスタンドカラーの場合は襟章の後ろに付ける。上級准尉はショルダーストラップに階級章を付け、襟に部門章を付ける。准尉は階級章がないため部門章をショルダーストラップに付ける。**海兵隊砲手** 球状の砲弾が爆発するデザイン。正装はシルバーで通常はブロンズ。上級准尉も准尉もこれら部門章をショルダーストラップに付ける。上級海兵隊砲手は階級章の代わりにショルダーストラップに付ける。**航空士官候補生** 最後まで海兵隊での任務を目的として訓練を受ける航空士官候補生は海兵隊の一部と考えられていた。訓練は海軍で行なわれている。デザインは陸軍と同じでショルダーストラップに付ける。**将校付き副官** 陸軍と同じデザインで合衆国の盾に鷲が乗る。星は副官が仕える将官の階級章。付け方は左右の鷲が向き合うようにする。**軍楽隊部門** 正装ではシルバーの琴琴。縮小されたサイズのものでシャツの襟にも付く。設立は古く、大統領の公式軍楽隊として長い歴史を持つ。



プロジェクトデルタ 偵察マニュアル Part 4 ベトナムにおける長距離偵察のA to Z

文/鈴木健太郎 写真/U.S. ARMY, USAF, WPPアーカイブ



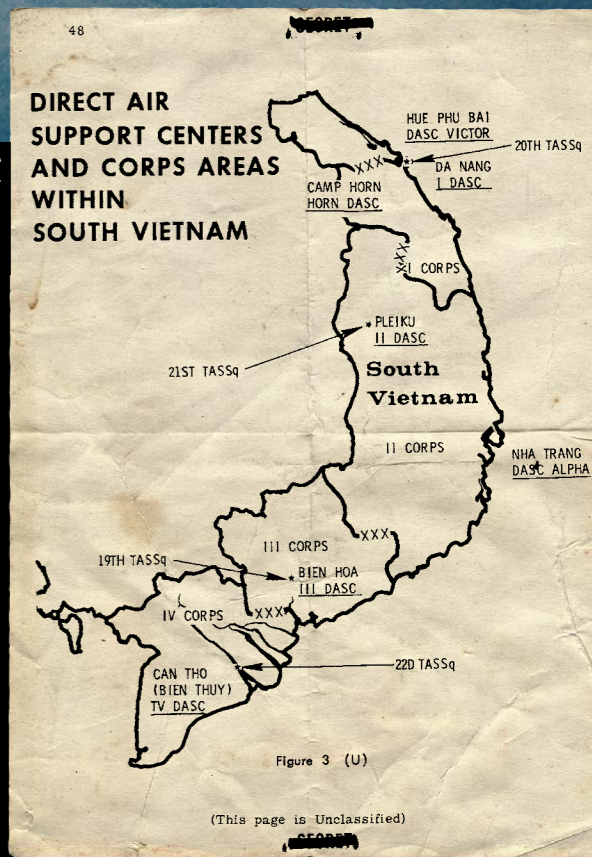
(左ページ上) 偵察部隊の支援に向かうUH-1ガンシップ。航空支援においては敵地の上空を飛行しながら地上部隊と航空部隊の連絡を取り持つFACが重要な役目を果たす。ベトナムではO-1バードドッグやOV-10ブロンコなどのプロペラ機に加えF-100スーパーセイバー、F-4ファントムなどのジェット戦闘機、さらにB-57キャンベラ爆撃機までFACに投入されていた。(左ページ下) 敵と交戦しながらFACと無線交信を行なう第151歩兵連隊のLRFP。リュックサックには航空機との連携に欠かせない発煙手榴弾がくくり付けられている。(上) 気配を殺しながら慎重にジャングルを進む第173空挺旅団の偵察チーム。敵に見つかることなくFACと連携するのは容易な作業ではない。(下) FACに用いられるOV-10と航空支援に向かうF-100。OV-10は対ゲリラ戦における軽攻撃機としてベトナムで実戦デビューし、FACにおいてもその能力を存分に発揮した。



(上) FACに用いられるO-1。主翼の下に装備しているのは攻撃機に標的の位置を知らせるための発煙ロケット弾である。ベトナムにおけるFACは対空射撃から身を守るため、AK-47の有効射程である1500フィート(457m)より上を飛ぶこととされていた。

FAC(前方航空管制)に関する諸注意

- 1 FACは偵察任務において自らの武器の次に重要な役目を果たすので、交信手順をしっかりと学んでおくこと。FACの適切な支援が得られるかどうかでしばしば任務の成否、そして偵察チームが無事に帰還できるかどうかが決まる。
- 2 FACはVR (Visual Recon=目視偵察) に備えて前方作戦基地から偵察地域までの地域をカバーする地図を持っていくこと。
- 3 FACはRZ (Recon Zone=偵察地域) の真上を飛行してはならない。RZの監視、観察を最大限に行なうには真上ではなくRZに沿って飛行したほうが良い。
- 4 航空機の飛行音が聞こえる時はFACから連絡があるかもしれないので、必ず無線機のスイッチを入れておく。
- 5 FACは悪天候の中や雨季の間は活動が大きく制限されるので、その点を予め考慮しておくこと。
- 6 FACを通じた緊急要請は実行に移されるまで通常15~45分ほどの時間がかかる。
- 7 航空支援には別の任務で出撃していた航空機も用いられるため、兵装が偵察部隊が求めるものと異なる場合がある。
- 8 敵と接触していない状態で特定の標的に空爆を要請する場合は、標的に対してもっとも大きな効果を発揮する兵装をこちらから指定する。



(上) 南ベトナムに置かれていた空軍地上支援センターの場所を示した地図。DASCはDIRECT AIR SUPPORT CENTER、TASSqはTACTICAL AIR SUPPORT SQUADRON (戦術航空支援飛行隊)の略。ベトナム戦争では南ベトナムとタイにTASSqが置かれ、FACパイロットの中には極秘任務を専門とする者もいた。(下) UH-1ガンシップのドアガンナー。ドアガンとして備え付けられているのは発射速度が最大で6000発/分もあるM134/GAU-2 7.62mmミニガン。





『28週後…』(原題:28weeks Later)

2002年に公開された『28日後…』の続編として、2007年にイギリスで製作されたゾンビ映画(※劇中の設定は生きたまま狂暴無双化するウイルス感染者)の大ヒット作品。アメリカのゾンビ映画とはひと味違う設定が話題を呼び、映画ファンに支持された。余談だが、3作目はロシアが舞台とだけ告知され、その後の情報はなにもない。

監督はファン・カルロス・フレスナディエロ、製作総指揮は前作『28日後…』で監督を務めたダニー・ボイル。出演者ロバート・カーライル、ジェレミー・レナー、ローズ・バーン、その他。狂暴化ウイルスの大発生から15日後、英国本土の隔離措置が取られる。28日後、英国本土は壊滅し、生き残った英国国民は集団脱出。5週後、感染者が飢餓で死に絶える。11週後、米軍主導のNATO軍がロンドンへ。18週後、英国で感染の恐れがない事を確認。24週後、復興が始まる。安全宣言が出されたロンドンでは米軍を主導としたNATO軍の保護下で封鎖された保護区域内の都市の復興が進んでいた。

装備マニアの観点からはNATO軍で登場するドイル軍曹(ジェレミー・レナー) 米陸軍特殊部隊DELTA隊員の装備に注目したい。撮影当時の2006年は中東でイラク・アフガニスタン戦争の真っ最中。DELTA隊員の資料ではバラクレイト社製RAV (Releasable Assault Vest) 防弾ベストが支給されているとある。恐らくその資料を基に装備品を手配しており、劇中でビル屋上から狙撃銃を携帯しているDELTA隊員たちにそれが見られる。

バラクレイト社製RAV (Releasable Assault Vest) 防弾ベスト

正式なMOLLE仕様になっての初期RAVは2000年頃から登場している。1998年AWS社製PPPV防弾ベストに、独自のベスト分解リリース機能を追加したデザインとなるが、MOLLEの初期考案はバラクレイト社だった為に、その後に発表されたネイテック研究所のプロトモデルCIRASランド防弾ベストが、バラクレイト社の特許侵害であると主張してもめた様である。レンジャーや陸軍特殊部隊、空軍特殊部隊等が採用している。

初期RAV

初期のモデルは胸元にベルクロがなく、全体の色合いが統一されている。迷彩色はRG(Ranger Green)でODに少し灰色が入った色となっている。写真は空軍/陸軍レンジャー一納品モデル。

RAV セカンド・モデル

映画で使用されているモノと同じく、胸元にベルクロが追加されたセカンド・モデル。RGの色あいが明るくなった様に見えるが、これはロット違いのようである。これ以降のモデルはボタンでフロントのファスナーが砂利をかんで破損しやすい事から、CIRASの様にファスナーを廃し、フロント・フラップでカマー・バンドを固定するようになった。



『ネイビーシールズ』(原題:Act of Valor)

2012年のアメリカ映画。アメリカ海軍特殊部隊Navy SEALsの活動を描いたアクション映画。原題の「Act of Valor」は直訳すると「勇気ある行為」。俳優を使わず、現役の海軍兵士が出演し、武器・弾薬・乗り物などもすべて実物を使用して制作されている。

監督スコット・ウォー、マイク・マッコイ、脚本カート・ジョンスタッド、製作スコット・ウォー、マイク・マッコイ。製作総指揮はマイケル・J・メイリス、ジェイソン・クラーク、マックス・ライトマン。出演者はローク・デンバー、ロゼリン・サンチェス、ジェイソン・コットル、その他。



兵士たちの肩にはBANDITO PLATOON PATCH.

IBH(Integrated Ballistic Helmet) ヘルメット

「Bandito」は無法者や盗賊の意味。背景にはSEALのシンボルであるトライデント(三叉鉾)が配されている(※トイソルジャー製)。

IBHヘルメットには、AN/PVS-18単眼式ナイトビジョンを取り付けるWILCOX製L2 G05 3 HOLE NVG マウントをねじ止めしている。



ロークLT(Lieutenant:大尉) 装備

実物の兵士と兵器・弾薬を投入しただけあって、プロップは最小ですべてがリアル。兵士の装備も多岐に渡り、支給品のMLCSと他メーカーのコラボ装備など興味深い。IBHヘルメットがカスタムされて、ローデシアン・チェスト・リグとMBSSプレートキャリアが縫い合わされているのだ(または別の方法で結合している)。またラジオは2台と思われるがアンテナは3つ?と難題。とにかく大事なコレクションの為、切ったり貼ったりが出来ないのでMLCS/SFLCSキット装備から基本的なラジオ・ポーチ2個、ローデシアン&MBSSプレートキャリア装備で組んでみた。カスタムされている部分は映画的な事情ではなく、現役隊員が使いやすいというものと筆者は思いたい。

SUREFIRE製LEDヘルメットライトHL1-C-TNがIBH左サイドに固定されている。



劇中画像、LITTON製AN/PVS-18単眼式NV使用。

THE EQUIPMENTS OF THE U.S. FORCE

左右にIFF赤外線反射国旗パッチ正逆両モデルを貼り付けている。後頭部のベルクロはバッテリーやバランス用も重りを固定する為のものだ。



チンストラップはオリジナルを外してOPS-CORE製Retention System H-Napeストラップに交換している。

しかし、これで終わらないのが映画特集!

DVD版からネット配信に代わり、映像がブルーレイ並みに綺麗になると話は違って来た。映画は夜の描写が多いのだが、ドイル軍曹の装備をよく見てみるとバラクレイト社製RAVとは異なる仕様だったのである! まずはバラクレイト社製のモノとは異なる仕様をあげていこう。①マガジン・ポーチのデザイン

- ②胸部分左右の銃床パッド
 - ③背面MOLLEパネル横の分離しないファスナー
 - ④背面下部左右の排除されたMOLLEループ
 - ⑤背面両肩にあるDリング
- 果たして、これはバラクレイト社が特別作ったヨーロッパ仕様なのか映画のプロップなのか……?

ポーチがバラクレイト社では見たことがないデザインだ。

背面の仕様は決定的にバラクレイトと違う。



首回りはバラクレイトそっくりなのだが……。



GUNCASE社製SAV05 EXPORT防弾ベスト。フロント・ファスナーが排除されている様にも見える。



イタリアDefcon 5社製。



SAV05後期モデル。現在販売されているイタリア製はこちらに似ている。



今や名残を残しているのはポーチだけだ。

2022 IPSC Pan American Handgun Championship

2022年9月に行なわれたIPSC北南米選手権に挑んだ鮫島宗貴。いきなりのガントラブルに見舞われるも、冷静さを失うことなくバックアップの銃に切り替え、次のステージへ向かった。自分との闘いの厳しさと難しさ、そして、その先にあるものとは——。2023年5月号に続く第3回。



このステージでは、滑車に付けられたロープをウィーク・ハンドで引っ張りながら、ストロング・ハンド・オンリーで撃つことを強いられた。奥に見える銀色の扉に備え付けられた装置に滑車をぶつけると扉が開く、凝った仕組みだ。

メンタル・ゲーム

IPSC/USPSA、スティールチャレンジ、ピアンキなどの射撃競技では、自分の持っている技術を試合で

発揮する為に精神面での強さが必要になる。たとえば、射撃技術においては高いレベルを持つが、メンタル面で弱いシューターAと、射撃技術においてはまだ低いレベルだが、メンタル面で強いシューターBの2人が

同じ試合に挑んだ場合、どのような結果になるだろうか——。僕の予想では、おそらく両者の結果は同じような内容になるだろう。ところがプレッシャーの掛からない練習や小さな試合においては、技術レベルの高いシューターAがシューターBを圧倒するケースが多いはずだ。では、メ

ンタル面での強さとは一体何なのだろうか？ 僕が経験してきたこと、目にしてきたことで分かっているのは、メンタル面とは、決して経験値が上がっただけで強くなるものではないと言ふことだ。アメリカでは、ジュニア・シューターの育成に力を入れており、2、3年に一度は大舞台で優勝候補になるような10代後半の選手が出てくる。だが、彼らが20代前

になってくると、優勝戦線から離脱してしまうケースも多い。これにはさまざまな理由が考えられるが、ひとつは保護者の下で試合だけに集中すればよかったジュニア時代と違い、車の運転、航空券の手配、弾、銃の用意等に加え、金銭的、時間的にこれらの準備が自分で完璧に出来ないことで、その不備が試合結果へ影響するパターンがもっとも多い。次に見てきたのは、大舞台での失敗を経験することで、失敗のイメージが頭にインプットされてしまうことだ。

試合運びで失敗を避ける為の手段を学ぶ機会と、も言えるが、逆にイケイケで攻める姿勢を貫き通すことが出来たジュニア時代とは変わって、コンサバティブに守りの姿勢を取り入れることで、勢いを失ってしまう例もある。現在、トップ・シューターとして活躍するシューターのほぼ全員が、1度はこの勢いを失い、更に磨きを掛けてトップへ戻ってくるというプロセスを得た上で、その地位を確立している。真のトップ・シューターになる為には、大舞台で負けを

経験し辛い時期を乗り越える必要がある。これに耐えるか、そうでないかが別れ道になっているのが現実だ。

不測の事態に対応するメンタル

僕はアメリカで12年以上、USPSA/IPSC、スティールチャレンジ、ピアンキを中心に試合を撃ってきた。この12年間、試合前後でのトラブルは毎回といってもよい程の頻度で経験している。旅行中のトラブル、日常生活で抱えている問題など、あらゆる要素が試合に影響を与える。とく

を撃っている最中にエキストラクターやエジェクターが折れる、ダット・サイトが壊れる、試合直前にスライドにクラックが入る等のトラブルは散々経験してきたが、ステージを撃ち終わり、異常を察知して、試射レンジで銃が復旧出来ない程に壊れるというのは、初めての経験だった。

ここで僕は頭を完全に切り替えることを意識した。「落ち着け。今の段階でこのトラブルはスコアにまったく影響していない。まだチャンスはある！」

その時、僕が自分自身に掛けた言葉だ。過去のトラブルは、すべて試合を撃っている最中に経験してきたものばかり。正直に言えば、すべてを掛けて挑む大舞台でスコアを台無しにしてしまうトラブルを経験すると、それ以降のステージでモチベーションを保つのは至難の業だ。とくに何度もその様なトラブルを経験してきた僕には悲壮感だけが残ってしまうのがパターンだ。しかし、今回のPAHCは、これまでのシューター人

生の中で1番の規模となる国際試合。何よりこのトラブルは、まだスコアに影響を残していない。バックアップの銃に切り替えると同時に、頭の中もネガティブな要素を捨てる必要があった。エリアCROの許可を得て、銃を切り替え、試射レンジでテストする。銃の撃ち味はまったく異なるが、不思議と僕は落ち着いていた。「IPSCのHFは低い。落ち着いてターゲットの中心を狙えば成績は必ず

付いてくる」僕はそんなことを考えながら次のステージへと走った。

ウォーク・スルーとパッチ貼り

アメリカ国内で開催される多くのアクション・シューティングがボランティア・スポーツとして成り立っている。これが意味するのは、選手



スライド・ストップ
ノッチにスチール・
パーツをインサート
して、強いキックを
発生するVer.3メカ
に対応。リコイル・
スプリング・ガイド
には衝撃を緩和し、
スライドを勢いよく
蹴り返すハイスピー
ド・バッファァが組
み込まれている。



ウィルソン・タイプのカスタム・パーツで構成された
CQBコマンダー・タクティカル。リアルに再現された外
観とVer.3メカが生み出すハイスピード・ブローバック
をして手に伝わる強烈なキックが味わえる1挺だ。



ブラックとダーク・グレーのモノ
トーンに包まれたウィルソン
CQBコマンダー・タクティカル。
近代的にアレンジされて新たな魅力を発
散するM1911コンパクト・カスタムだ。



●Photos & Text by SHOTGUN MARCY
@ウエスタン アームズ 03-3407-5922
<http://www.wa-gunnet.co.jp>

BERETTA M92FS DIE HARD GUNBLACK Ver.

20世紀の傑作アクション・ムービーをテーマに
入念なフィニッシュで製作されたM92FSムービー・カスタム



1980年代半ばに米軍の制式採用拳銃となったベレッタM92FS。米軍が国内ブランドから離れたこと、9mmパラベラムを選択したことなどが、当時大きな話題になった。米軍の採用後、多くの国でM92FSの採用が進み、コマーシャル・ベースでも徐々に普及していったが、その人気を一気に頂点まで上げたのが、メル・ギブソン主演の『リーサル・ウェポン (1987年)』と、ブルース・ウィリス主演の『ダイ・ハード (1988年)』の2作品。共に型破りな刑事をヒーローにしたアクションだが、完全無

欠なキャラクターではなく、一方はサイコ的な刑事、一方は決して冴えていないオジサン的な刑事という設定が新しかった。

そして、なによりファンを惹き付けたのが、どちらも正義感にあふれる無類のタフガイという点だった。そのエネルギーを象徴したのが15+

Militaria Roundup!

ベトナム戦争のアメリカ / 南ベトナム軍パッチ

ミリタリーの分野でも主要ジャンルを占めるベトナム戦争だが、紹介されるのはアメリカ軍関連の情報が大半だ。Part 3
 ベトナム戦争パッチ・シリーズの最終回は語られることの少ない南ベトナム軍の各種組織とその部隊パッチを紹介していこう。
 解説/菊月俊之 写真/青木健格 撮影協力/サムズミリタリ屋 https://www.sams-militariya.com, MASH ☎06-6567-3312 http://www.mash-japan.co.jp

南ベトナムとベトナム戦争

第2次大戦が終結した1945年9月、共産主義者ホー・チ・ミン率いるベトミン（ベトナム独立同盟会）が宗主国フランスからの独立を求めて蜂起し、ベトナム民主共和国（北ベトナム）を樹立した。そして戦後にインドシナに復帰したフランスとの間に武力衝突が発生し、インドシナ戦争に発展する。やがてフランスは劣勢となり、54年には休戦を模索してジュネーブで会議が開催される。同年7月に休戦協定が調印され、フランスはインドシナから撤兵した。56年に統一選挙が行なわれるはずだったが実現せず、北緯17度線を境に北のベトナム民主共和国、南にベトナム共和国（南ベトナム）が成立する。

しかし1959年から南ベトナムでは反政府勢力によるゲリラ活動が頻発し、翌60年には南ベトナム解放民族戦線（ベトコン）が結成されて内戦状態に突入する。またソ連と中国から軍事援助を受けた北ベトナムも南ベトナムへの攻勢を強めていく。アジアの共産化を恐れるアメリカは南ベトナムに軍事援助を行ない、64年のトンキン湾事件を契機に本格的軍事介入を開始する。しかし南ベトナムでは63年から軍事クーデターが頻発し、政権は安定せず腐敗が多かった。

そして1968年のテト攻勢を境にアメリカでは反戦運動が高まりを見せ、リチャード・ニクソン大統領はベトナムからの撤兵を表明。73年のパリ協定によって和平協定が締結され、同年3月にアメリカ軍は撤兵を完了した。しかし南ベトナム国内では解放民族戦線との戦闘が続き、北ベトナムも和平協定を反故にして74年12月に非武装地帯を超えて南ベトナムに侵入。そしてアメリカの軍事介入がないと判断すると、75年3月に全面攻勢を開始。アメリカからの軍事援助が激減して弱体化した南ベトナム軍は士気も低く、4月30日には首都サイゴン（現ホーチミン）が陥落。これにより戦闘終結と無件降伏が宣言されてベトナム戦争は終結し、南ベトナムは消滅した。

南ベトナム陸軍 (ARVN) ARMY OF REPUBLIC VIETNAM (ARVN)

ベトナムはフランス植民地だったため、ベトナム人はフランス軍に従軍していた、しかし1954年にフランスから撤退したことで、南ベトナムは独自の軍隊を創設する。54年当時の南ベトナム軍の兵力は152個歩兵大隊、2個空挺大隊、2個近衛大隊、2個高地歩兵大隊、2個機甲騎兵大隊、6個砲兵大隊、5個工兵大隊だった。1955年には部隊を再編制し、4個師団と6個軽師団を編制。その兵力は師団が約8100人、軽師団が約5800人だった。

その後も軍の再編成は続き、1959年に7個師団（兵力1万450人）を編成。1個師団は3個歩兵連隊を基幹とし、砲兵、迫撃砲、工兵大隊、そして中隊規模の各種支援部隊が加わった。これ以外にも5個空挺大隊、と4個機甲騎兵連隊が編成されている。またベトコン（民族解放戦線）の活動が活発化したことで反乱鎮圧作戦への対応が必要となり、60年には歩兵大隊に1個レンジャー中隊を配属。さらに特殊部隊（LLDB）が対反乱部隊として創設された。1963年には南ベトナム陸軍の兵力は19万2000人に達し、4個軍団、9個師団、1個空挺旅団、1個特殊部隊群、3個独立連隊、1個国防義勇連隊、86個レンジャー中隊、そして19個独立大隊から構成されている。

1965年にアメリカが本格介入を開始すると、南ベトナム軍もその兵力を拡大。兵員補充と訓練面での改善がなされ、アメリカ軍や連合軍と共に作戦行動を実施するようになった。66年のARVNの兵力は正規軍27万7363人に達したが、脱走や戦死、負傷などから実質的な兵力は定数の約9割だったとされる。南ベトナム軍は主として地方の平定作戦や保安任務に従事したが、アメリカ兵は南ベトナム軍が「安全」な任務に就いていると感じたという。

1969年にアメリカ大統領に就任したリチャード・ニクソンはアメリカ軍の撤兵を検討し、「ベトナム化」政策によって南ベトナム軍が戦争の主役を担うことになる。70年当時の南ベトナム正規軍は50万3000人、これに55万の準軍事組織が加わる世界第4位の兵力を有していたが、政府と軍の腐敗と士気の低さが相まって戦闘能力は低かった。またアメリカによる軍事援助の打ち切りが軍の士気をさらに低下させ、75年の北側による全面攻勢では短期間で壊滅状態に陥った。

ベトナム戦争の終結によって南ベトナム軍は消滅したが、将校は再教育施設に送られたほか、軍人墓地への墓参が禁じられるなど、元軍人にはさまざまな迫害が加えられたという。

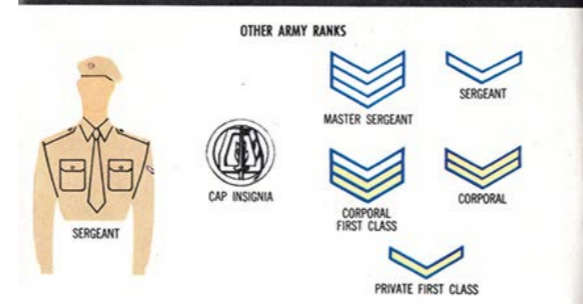
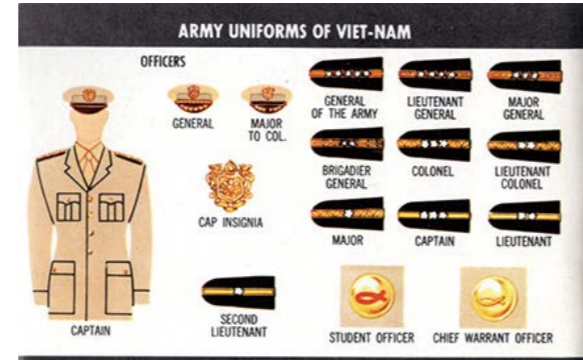


南ベトナム軍参謀総長のカオ・バン・ビエン将軍にシルバー・スター勲章を授与する在ベトナム軍事顧問団 (MACV) 司令官のウィリアム・ウエストモランド大将。カオ・バン・ビエン将軍の迷彩服に付いている勲章は南ベトナム陸軍統合参謀部の部隊章。1967年5月の撮影。(Photo : Naval History and Heritage Command)

南ベトナム軍兵力配置 (1972年)			
第I軍団戦術地域	第II軍団戦術地域	第III軍団戦術地域	第IV軍団戦術地域
第1、2、3歩兵師団	第22、23歩兵師団	第5、18、25歩兵師団	第7、9、21歩兵師団
第1レンジャー群	第2レンジャー群	第3、5、6、81レンジャー群	第4レンジャー群
第1機甲旅団	第2機甲旅団	第3機甲旅団	第4機甲旅団
空挺師団			第41、42国境レンジャー群

南ベトナム陸軍ユニフォーム

ベトナム戦争中にアメリカ兵に支給された「A Pocket Guide to Vietnam」に掲載された南ベトナム陸軍の通常軍装と階級章。陸軍の通常軍装はカーキ色で、下士官兵はベレーを着用した。ベレーはレンジャーと空挺部隊が赤、特殊部隊がグリーンで、そのほかの兵科はカーキ色のものを着用した。



南ベトナム軍ユニフォーム

南ベトナム陸軍のユニフォームは大量の軍事援助を受けた関係からアメリカ軍と相似形で、野戦服はアメリカ陸軍のOG107ユーティリティ・ユニフォームに似たデザインのもを着用した。ただし使用生地やデザインと裁断が異なるバリエーションが存在し、ショルダー・ループや余分のポケットを追加したものも作られた。またトラウザーズはアメリカ軍よりも細身となっている。ヘッドギアはアメリカ軍に似た野球帽型（ビーニー・キャップ）の帽子が使用されたが、レンジャー、空挺、特殊部隊ではフランスの影響を受けてベレーを着用。ヘルメットはアメリカ製のM1ヘルメットが使用された。

また、さまざまなカムフラージュ・ユニフォームがエリート部隊および準軍事組織の部隊で着用され、空挺部隊などの一部部隊は独自のカムフラージュ・パターンを使用している。また1960年代後半にはアメリカ製のジャングル・ファティグも支給されたほか、準軍事組織の州偵察隊 (PRU, 後述) ではアメリカ製のERDL (リーフ・パターン) カムフラージュ上下が支給された例も見られる。

南ベトナム軍が野戦服に着用した布製徽章は①刺繍、②機械織り、③布地に印刷の3タイプで、部隊章は師団および軍団章を左肩に。連隊、大隊、中隊の部隊章をポケットに着用するのが一般的で、複数を着用する場合は右胸に規模が大きい方の部隊章を着用した。

カムフラージュ・スーツ

南ベトナム軍は1960年代初めからカムフラージュ・ユニフォームを導入しており、複数のパターンが存在している。最初期のものはインドシナ戦争でフランス軍が着用したイギリス軍スモックのパターンをコピーしたもので、1962年頃から空挺部隊に支給された。また64年頃にはアメリカ軍事顧問団が持ち込んだ民間の「ダックハンター・パターン」をコピーしたものが作られたが、これは俗に「レパード (ヒョウ) ・パターン」と呼ばれている。そして1964~65年頃にはアメリカ軍のERDLカムフラージュ (リーフ・パターン) に似たものが導入されたほか、ヘルメット・カバーに使用されたミッチェル・パターンに似たカムフラージュ・スーツも作られている。写真は「ARVNリーフ」、「空挺リーフ」と呼ばれるパターンの南ベトナム軍ジャケット。(撮影協力: MASH)



OG107ユーティリティ・シャツ

アメリカ陸軍が野戦服、作業服兼用で着用したOG107ユーティリティ・シャツ (写真は複製品)。1952年に採用され、ベトナム戦争初期のアメリカ軍によって着用されている。ただし生地が8.5オンス (1ヤード平方の生地重量) と厚いためベトナムの気候には不向きで、63年から順次ジャングル・ファティグと交代している。写真のシャツは袖にカフスの付かない1stタイプで、カフスが追加されるのは64年から。(撮影協力: MASH)

南ベトナム空軍ユニフォーム

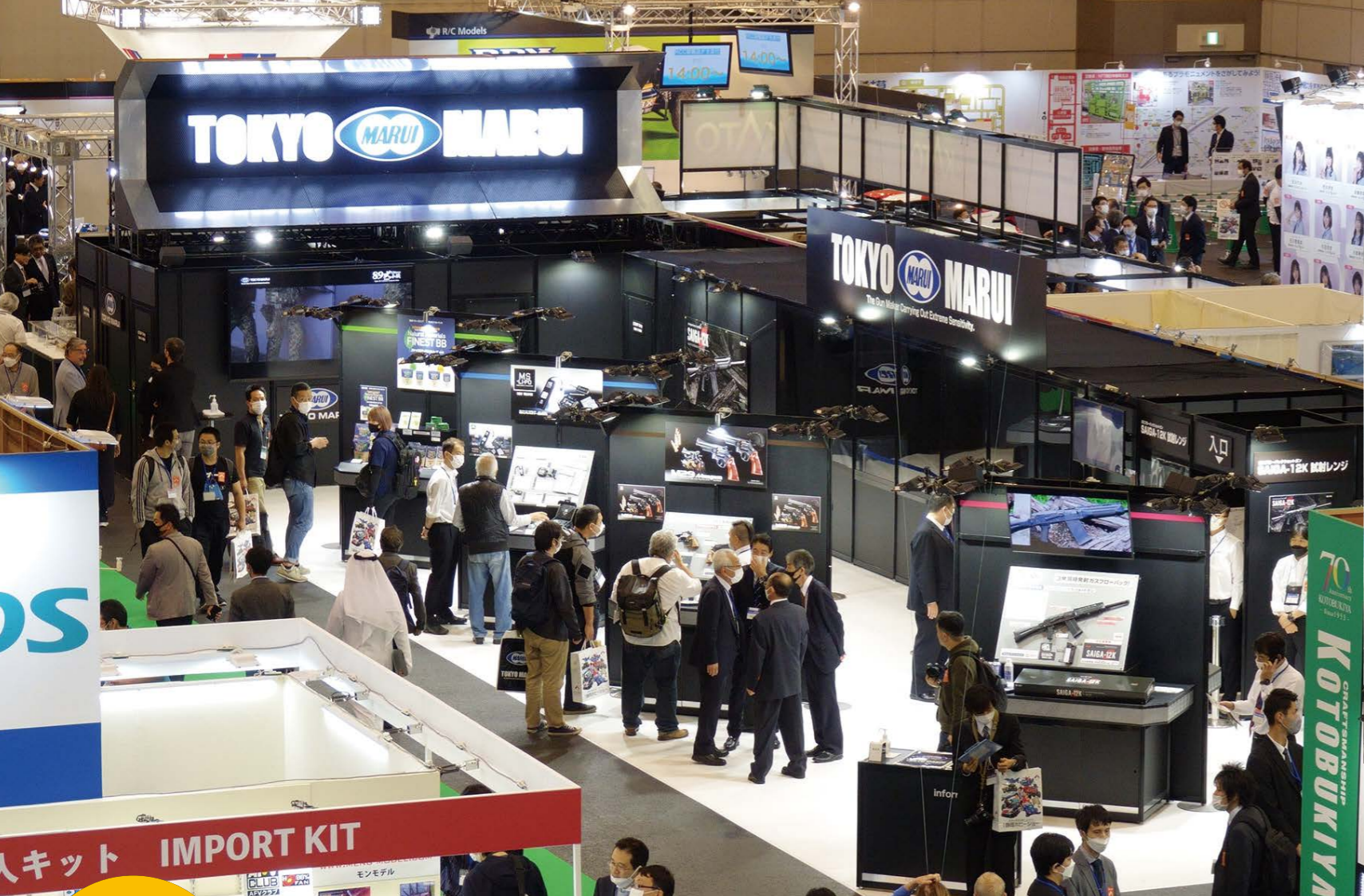
南ベトナム空軍 (VNAF) の制服は色がブルーで、将校は4つポケットのジャケット、下士官兵は腰丈の短ジャケットを着用した。ヘッドギアはバイザーの付いた制帽だが、戦争初期にはベレー帽も着用された。空軍の部隊章は主に飛行服に付けられ、飛行隊や航空団など3~4つものパッチを着用することも行なわれたという。図版はアメリカ軍のポケットガイドに掲載のもの。



南ベトナム海軍ユニフォーム

南ベトナム海軍 (VNN) の制服は将校と下士官がダブル・ブレスト (両前) のジャケットを着用し、水兵は襟に3本の青いストライプの入ったセーラー服を着用した。将校と下士官はバイザー付きの制帽、水兵はアメリカ海軍の水兵帽 (デキシー・キャップ) に似た帽子を着用したが、河川および沿岸部隊ではベレー帽を着用していた。図版はアメリカ軍のポケットガイドに掲載のもの。





●東京マルイ <https://www.tokyo-marui.co.jp>



SAIGA-12K
 最初に「ほぼ完成品」を取材したのが昨年＝2021年の7月。8月には試作モデルをお借りして実射レポートもやった「SAIGA-12K」。「お久しぶりです！」の気持ちで試射レンジに入ったものの、撃ったらまるで別モノ！ さらに衝撃のリコイル！ 0.2g BBで鋭い弧を描くHOP弾道！ 思い切り速く連射しても衰えないガス効率！ 54,800円（税別）は絶対安い！



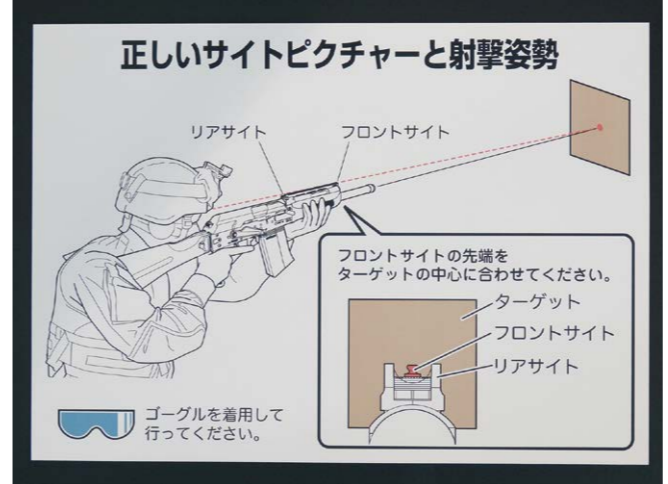
TOKYO MARUI 第61回静岡ホビーショー2023 東京マルイブース情報

2023年5月10日～5月14日の5日間にわたり、ツインメッセ静岡にて「第61回 静岡ホビーショー2023」が開催された。WHOの緊急事態宣言も撤回され日本国内でもさまざまな規制が緩和されたものの、引き続き

「感染拡大に注意」との観点から10-11日の業者招待日、12-14日の一般公開日ともに「来場にはWEBサイトからの事前登録が必須」という条件下での開催だったわけだが、そのWEB申請も早々に締め切りとなる

大盛況！ ようやくコロナ禍が明けたホビー業界に対する期待感、一般の方々の関心の高さが窺えた。COMBAT読者ももっとも気になる東京マルイ・ブースでは、昨秋の「全日本模型ホビーショー2022（東京

ビッグサイト）」では叶わなかった「10m試射レンジ」の設置が復活！ 度重なる改良を経ていよいよ今夏発売となる新製品「SAIGA-12K」の体験射撃には整理券を求める来場者の長い列が出来ていた。



ビギナー向けの懇切丁寧な説明もまた東京マルイの真骨頂。

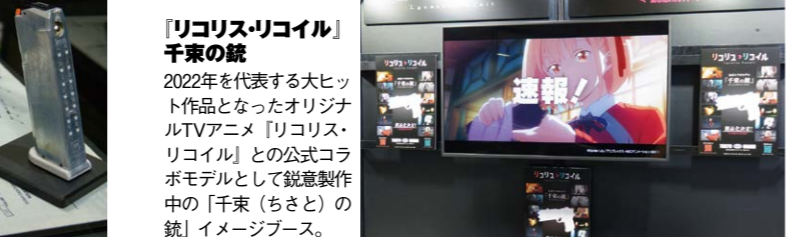
実物からスキャンした画像を元に特殊印刷で表面の模様を再現。細かなマーキングやスタンプ等もリアルに施されている。

発売されたばかりのガスローバック新製品AKX。オプションパーツとしてファン待望の「35連ベークライト リアルスキンスペアマガジン」も発売される事となり、フル装備のイメージ展示も行なわれた。



グロック17 Gen3 MOS
 2023年2月のマルフェス・オンラインで電撃発表されたグロック17 Gen5 MOSはモックアップが展示された。発売中のGen3とGen4も展示され、「グロック王者＝東京マルイ」をアピール？

マガジンは実銃のGen5同様、オレンジ色フォアローの「Ver.20」従来のGen3、Gen4モデルとの互換性もある、との事。



ガスガンの今後同行を左右するのがパワーソースとなるガスボンベ。東京マルイは他社に先駆けて環境負荷が最小限の「ノンフロンガンパワー（左）」を商品化し、対応製品の仕様についても常に改良＆適正化を続けている。



月刊

THE グリーンベレー
GREEN BERET vol.51



OLD SKOOL ARCHIVES
3rd SFG(A)-CIF
IRAQ2005

オールドスクールアーカイブス
第3特殊部隊グループ-CIF
2005年イラク編 文・写真/DJちゅう 場所/サバゲーパラダイス



74式戦車脱魂式

東西冷戦時代、日本本土防衛の要であった74式戦車。配備開始から間もなく50年——。かつては日本全国に配備されていたが、次々と退役しており遂に北海道から全車退役することになった。

東西冷戦時代、北海道の防衛警備を担当する北部方面隊が目指したのは機甲科部隊の拡充と増強だった。というのも、北海道は強大な軍事力を持つソ連と海を隔てて向かい合う最前線だった。ソ連軍は日本をはるかに凌駕する数の戦車を配備しており、それに対抗すべく、北部方面隊には戦車が集中的に配備されていった。そんな中、1974年より配備が開始されたのが冷戦期の主力戦車である74式戦車だ。優先的に北部方面へと配備された。戦車増強の象徴となったのが1990年代初頭に行なわれた

「戦車北転事業」だ。これは、本州や九州の74式戦車や戦車乗員を北海道へと集めてとにかく数を揃え、機甲科部隊を整備していき、ソ連機甲部隊との均衡を保つのが目標だった。さらに、1990年からは90式戦車の配備がスタートし、北部方面隊は機甲師団たる第7師団を筆頭に、第2師団、第5師団（のちの第5旅団）、第11師団（のちの第11旅団）も戦車部隊を増強し、防衛力を高めていった。冷戦が終結し、テロとの戦いの時代を挟み、中国による日本南西諸島への侵攻が新たな脅威となった。

これに伴い、九州・沖縄エリアが最前線となった。防衛省は北部方面隊の戦車部隊を見直し、部隊の縮小、戦車の削減を目指すことになる。2023年3月をもって北部方面隊からすべての74式戦車が引退することになった。道内最後の74式戦車配備部隊となったのが、道北を守る第2師団第2戦車連隊だった。第2戦車連隊は1954年に第2特車大隊として名寄駐屯地に新編された。翌年、現在の所在地となる上富良野駐屯地へと移駐し、1962年に戦車大

隊へ改編される。当時は4個戦車中隊を基幹としていた。1976年8月21日、74式戦車第1号が第2戦車大隊へと配備され、入魂式が執り行なわれた。入魂式とは部隊長等が戦車の砲塔などに描かれた部隊マークや数字などに筆を入れ、魂を込めるという儀式で基本的にすべての戦車部隊で実施しているものである。前述の「戦車北転事業」により、北部方面隊直轄部隊として1991年に第316戦車中隊を上富良野駐屯地に新編し、第2戦車大隊隷属扱いとした。1995年、第2戦車大隊は第316戦車中



2023年3月5日。74式戦車最後の訓練展示が上富良野駐屯地で行なわれた。雪原の中、勇ましく進軍していく姿。

UCQBS Stylers Convention

先日千葉県のフィールド「ユニオンスタジアム」にて行なわれたUSC (UCQBS Stylers Convention) のイベントをレポートする。

本誌ではその中でも参加者の装備にフォーカスをお伝えしよう。

Text & Edit by JK
SPECIAL THANKS HARUNOBU YOKOTA

本誌の読者ならばご存知の方も多いと思われるが、UCQBSとは長年ミリタリー、サバゲー界隈を牽引してきたカリスマ、魔肖FUJIWARA氏をデザイナーとしたアンダーグラウンド クロージングブランド (Twitter: UCQBS @UCQBS2020) である。

本誌でも度々特集ページを担当していた彼のコアなファンは多く、過去ミリタリー界隈では米DELTA FORCEやPolandのGROM関連装備のコレクターであり、ミリフォトなどに度々登場する所属不明の戦闘員をコンセプトにしたUO (※アンノウンオペレーター) スタイルの第一人者としても知られている。

さまざまなバックボーンを持つ彼が繰り広げる、ミリタリー、スポーツエアソフト、タクトレなど、ジャンル垣根を超えた独自の世界観。それがUCQBSである。

本イベントUSCのドレスコードは“自由”。どんな装備でもフィールドレギュレーションさえ守れば、誰でも参加でき一緒に遊ぶことができる。各々装備は違えど、新たな交流が生まれるきっかけにもなっているようだった。

今回本誌は其中でもUOライクな装備の参加者をフィーチャー。独自のコンセプトやこだわりを、装備を通して感じてほしい。



①米軍特殊部隊員をコンセプトにUO装備を組んでいる参加者。
②タクティカルトレーニング系から、割としっかりめな軍装に近いスタイリングまでさまざまだが、ミリタリー系装備イベントとはやはりひと味違う雰囲気に仕上がっている。
③今回UO系装備の参加者の中でももっとも使用率が高かったのが東京マルイ製の次世代電動ガン「MP5 SD6」。各々こだわりのカスタムが施され、どれひとつ同じセットアップが存在しなかった。カスタムの幅の広さと圧倒的な実射性能が好評の理由だろう。
④FUJIWARA氏がかつて手がけたVALTACのプレートキャリアにご自身がデザイン、監修されたリグを着用されたパイパー氏。UCQBSとUOがぶつかることなく混在したバランス。

